

人が訪れ、消費が拡大する観光交流の振興 ～小山町の宝探し～

日本大学短期大学部 大久保ゼミ・常葉大学 経営学部 竹安ゼミ
指導教員：教授 大久保あかね・竹安数博
参加学生：丸山直美、安部史織、小嶋菜生、
三宅満里奈、久保田麻友 他

1. 要約

小山町らしいオリジナリティ溢れる着地型旅行商品開発をするために、観光資源調査・観光モニターツアーを行った。そこで、日本文化体験や小山町の特産物に触れることで印象に残りやすいことが分かった。このことを踏まえ、小山町と結び付けられるような体験型旅行商品を提案した。



2. 研究の目的

金太郎生誕の地である小山町は、世界文化遺産の富士山や富士スピードウェイ、ゴルフ場など、自然環境に恵まれている。また今後は工業団地、住宅団地、複合観光施設、宿泊施設等を整備する「三来拠点事業」が進められ、来訪者の拡大が予想される。一方で町民を核とした来訪客受入態勢の整備が課題となっている。本研究は、海外からのインバウンド観光客を意識した着地型旅行商品の企画や、地域資源の調査を通して、小山町の新たな魅力を掘り起し、受け入れ態勢の整備や町民が自慢できる町づくりにつなげることを目的とする。

3. 研究の内容

期 間：7月10日～11月30日
実施場所：小山町役場・観光施設等
実施項目：小山町観光資源調査
資源調査報告会
モニターツアー



←農家での伝統料理体験

↓バスの中で小山町を紹介



4. 研究の成果

(1) 当初の計画

- ① 9月11日、12日 観光資源調査
- ② 11月18日モニターツアー

(2) 実際の内容

- ① 7月10日 小山町役場担当者との打合せ：調査の目的、体制の確認、全体スケジュールの調整
- ② 9月11日、12日小山町観光資源調査
- ③ 9月12日 小山町役場での資源調査報告会
- ④ 11月13日ツアー協力者との打ち合わせ
- ⑤ 11月18日小山町観光モニターツアー

(3) 実績・成果と課題

■9月11日・12日 小山町観光資源調査

調査対象：道の駅ふじおやま、道の駅すばしり、富士スピードウェイ、あしがら温泉、富士之堡（ふじのぼろ）華園ホテル、足柄サービスエリア、以上6地点

調査内容：小山町周辺施設の視察、外国人団体旅行者への対面調査

- ・日本に訪れたのは初めて
- ・6日間で東京→京都→奈良→大阪を周遊する
- ・日本語が分からなくて困っている

■9月12日 小山町役場での資源調査報告会

観光資源調査では、7つの視察ポイントを設定、調査した。

「商品構成」・富士山をイメージしたものが多い、日本らしい商品が多い

「商品・施設の見せ方」・英語表記が少ない

「文化」・大きな看板に外国語の表記はなかった

「人的対応（外国語対応者の有無）」・英語を話せるスタッフが限られている

「デジタル対応（wifiの有無含む）」・設置してあるタブレットは反応が悪いものの、翻訳しながら近隣のお店について知ることができて、便利である

「パンフレット（多言語対応の有無）」・登山用のガイドブックの対応ができていた

「その他（施設までの案内・日本らしさ・統一感）」・国道など経路に案内板がほしい

■11月18日 小山町観光モニターツアー

台湾人家族、韓国人留学生（常葉大生含む）19人参加

【小山町モニターツアーのコンテンツ】

①農業体験と日本の生活文化の解説：協力いただいた農家さん（勝間田家）

②伝統料理体験A（おにぎり、猪汁、蟹汁を作る）：協力いただいた農家さん（勝間田家）

③正式参拝体験：八王子神社

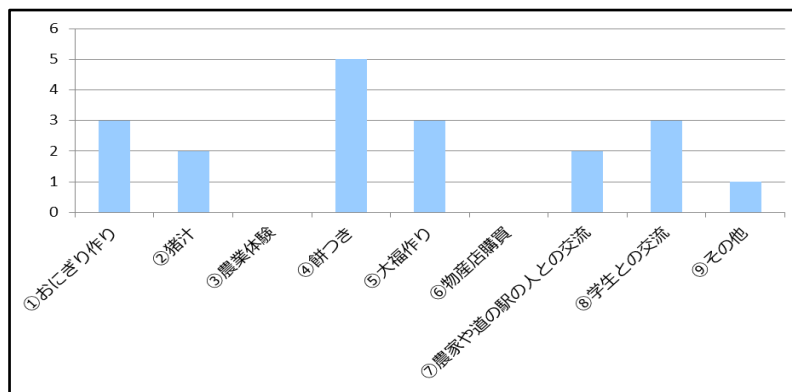
④伝統料理体験B（餅つき、大福作り）：小山町農業活性化センター ふじあざみ

*バスの中では、小山町の紹介とクイズ形式の特産品紹介、富士山情報などで交流した

参加者の感想

・お餅つきに惹かれました。あまり機会がないことなのでとてもいい経験になりました。雨でなければ山町を散歩してみたかったです。すごく楽しいツアーでした（韓国、20代、女性）

・このツアーは本当に貴重な体験でした。勝間田さんの家に行き、地元の食べ物も試食できたり、日常生活を見て学んだりして大変良い機会をいただきました。私なら、このツアーに5000円払って参加したいと思いました（台湾、30代、男性）



図：参加者アンケート（楽しかった体験）

■11月30日 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア（ポスター発表）

観光資源調査・小山町観光モニターツアーをもとにしたポスターを作成し、発表を行った。多くの方からアドバイスをいただいた。

- ・HPを作るとよい（中国語、韓国版も）
- ・今回は19人の参加だったが、これ以上数が増えたらどうするのか
- ・体験のメニューを変えれば、男性・女性といった客層が変わる

(4) 今後の改善点や対策

ツアーの参加者からおおむね好評だった。農業体験が道の駅の買い物に想像以上の効果があった。主催者の思い込みで可能性を限定するのではなく、小さなことでも実験することが重要と思った。スタッフから、ツアー参加者同士（韓国人 20 代女性×台湾人家族×初対面の日本人）の会話があまり見られなかったため、スタッフがコミュニケーションの助けをするべきだと思った。「子供が喜ぶツアーが大事だと思ったので、体験メインにするツアーを考えていきたい。」

「家族向けツアーなど皆が楽しめるものを考えるといったターゲットを明確にすべきである」という意見が出た。

5. 地域への提言

モニターツアーを踏まえて以下のツアーを提案する。

【売りたいものを紹介するツアー】

商品の説明をするだけではなく、売りたいと思うものを実際に食べてもらうことでその商品の良さを知ってもらう。ツアーの最後にそれを売っているお店に誘導して買ってもらう。

【見る、聞くだけのツアーでなく、体を動かす（体験型ツアー）】

日本文化を知ってもらうには「見る、聞く」よりも体験してもらったほうが印象に残る。

今回のツアーのように餅つきなど実際に体験してもらうことによって日本文化を直に体感できる。

事前に日本で体験したいことを調査し、小山町と結び付けられるような着地型旅行商品を作りたいと考える。小山町らしさを特産物のお餅で紹介、小山町の金太郎を全面的に出したツアーも考えていきたい。

6. 地域からの評価

◇小山町役場商工観光課

小山町では現在、観光振興計画を策定し、インバウンドへの対応の強化も施策の1つとして取り組んでいます。

今回のモニターツアーでは、餅つき等、日本文化に触れる体験が好評であり、これらが町の観光資源となり得ること、通訳の必要性や言葉の問題など企画運営の上に課題が残ったこと、この2点については外国人観光客を受け入れる際に大変参考になると感じました。さらに、学生提案の中にあつた、みんなが楽しめる体験型のプランについては、旅行商品を今後造成していく中で、取入れて行きたいところです。

また、参加者へのアンケートでは、「日本の魅力」や「欲しいと思う施設やお土産」について記載されていた部分がありました。なぜ参加者はそう感じたのか、参加者とコミュニケーションをとった際に得られる生の感想も聞いてみたいと感じました。

◇小山町 DMO 準備室

この度は小山町の観光の可能性について、モニタリング及びツアー実施をして頂きまして誠にありがとうございます。

まずは以下の点で感謝しております。

1、外の目から、小山町にとってできてない点を何点か指摘して頂いた。

①看板の設置の不適格

②その多言語が表記されていない点

③街中の方々の語学力の啓蒙

以上については、外から指摘を受けて初めて感じる部分かと思えます。

遅ればせながら DMO では、月 2 回の「身体で覚える観光英会話」を今月よりスタートさせました。6 月からは中国語も追加予定です。

2、インバウンドの方々が何気ない日頃の生活を非常に高評価して頂いた点。

これに関しましては、現在 DMO にて 4 月より小山町体験パックをスタートさせて、その中で「暮らす様に旅をする」をコンセプトに小山町ならではの体験カリキュラムをスタートさせます。

3、お餅付きなどに高評価。

小山町DMOとしては、現在ブランド品の構築に入っております。

- ① 小山町金太郎 onigiri
- ② 小山町金太郎の力餅
- ③ 小山町コシヒカリで作る金太郎おこし

以上をDMOにて監修し、製造、販売に持って行きたいと考えてます。

富士スピードウェイしか主だった観光施設がないと言われる小山町ですが、日頃の生活の中に都会の方やインバウンドの方を引き寄せる要素が豊富にあることを今回学生の皆さんが実証して下さいました。心より感謝致します。

今後は可能であれば、インターシッピ性など、オペレーションで皆さんのさらなる力をお借りできれば幸いです。